

【九州大学大学院芸術工学府 デザインストラテジー専攻】(2021年度以降入学者)

1) ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)

教育の目的

<修士課程>

芸術工学府デザインストラテジー専攻(修士)プログラムでは、「高次のデザイン教育」という理念・目標に基づき、デザインストラテジーに関わる多様な関係性と方向性を的確に分析・構想・実践・評価できるデザインストラテジストを養成するための教育と研究指導を行う。

また、研究の主軸となる領域(デザインビジネス、ストラテジックアーキテクト、ストラテジックエクスペリエンスのいずれかを選択)の専門知識、先端的研究や技能に加え、学際的な研究を行う基礎力並びに各領域に共通・横断するデザインに関する専門知識と専門技能の習得、および以下の領域ごとの到達目標を達成するための研究機会を提供する。

○ デザインビジネス領域

デザインビジネスの基礎から知的財産として活用する専門知識までを学び、さらに社会、経済、産業との関わりから新しいデザインニーズを開拓し、解法に結びつける方法論を構築できる能力を身につける。

○ ストラテジックアーキテクト領域

都市・建築デザイン、空間デザイン、インダストリアルデザイン、生活文化デザインなどにおいて、デザインビジネスとの統合をふまえたデザインストラテジーを構築できる能力を身につける。

○ ストラテジックエクスペリエンス領域

ユーザーエクスペリエンスを形成する映像デザイン、インタラクティブデザイン、リスニングデザインなどの情報デザイン分野における、デザインビジネスとの統合をふまえたデザインストラテジーを構築できる能力を身につける。

学位授与の要件としては、本学府の定める期間在学して研究指導を受け、本専攻の教育理念、目標に沿って設定した授業科目を履修するとともに、基準となる単位数を修得し、修士論文または修士作品の審査および最終試験に合格し、所定の学修目標を達成した者に修士(デザインストラテジー)の学位を授与する。

<博士後期課程>

芸術工学府デザインストラテジー専攻(博士後期課程)プログラムでは、デザインストラテジーの専門知識(デザインビジネス領域、ストラテジックアーキテクト領域、ストラテジックエクスペリエンス領域など)と学際的素養を土台として、芸術工学または工学の専門性をより深化・発展させ、世界水準の研究能力を習得し、独創的な学位論文を完成するための教育と研究指導を行う。さらに研究者として自立できる専門的、先端的な研究能力および知識・思考・分析能力・技能、学際的、総合的視野から社会のさまざまな問題解決に指導的役割を果たす能力を身につけるための教育と研究指導を行う。

学位授与の要件としては、本学府の定める期間在学して研究指導を受け、本専攻の教育理念、目標に沿って設定した授業科目を履修するとともに、基準となる単位数を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格して、課程を修了し、所定の学修目標を達成した者に博士(芸術工学)または博士(工学)の学位を授与する。

参照基準

<修士課程・博士後期課程>

ディプロマ・ポリシーに関わる参照基準は次の通りである。

- 1) Subject Benchmark Statement (UK): Art and Design (2017)
- 2) RCA Postgraduate Art & Design (2017)
- 3) RCA Quality Handbook (2014)
- 4) Subject Benchmark Statement (UK): Architecture (2010)
- 5) Subject Benchmark Statement (UK): Master's Degrees in Business and Management (2015)

※ 九州大学芸術工学部芸術工学科環境設計コースを卒業し、本専攻に在籍し、芸術工学府長が認可した者は、日本技術者教育認定機構（JABEE）建築系学士修士課程（建築設計・計画系分野）認定「グローバル・アーキテクト・プログラム（環境設計プログラム）」を履修することができる。

到達目標

<修士課程>

A-1. 主体的な学び

深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。

A-2. 協働

多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。

B. 知識・理解

B-DB. デザインビジネス領域

- ・デザインビジネスの基礎から知的財産として活用する専門知識やデザイン理論、デザイン実践手法、評価方法などについて、理解し他者に伝えることができる。

B-SA. ストラテジックアーキテクト領域

- ・ストラテジックアーキテクト分野を形成する都市・建築デザイン、空間デザイン、インダストリアルデザイン、生活文化デザインなどの各分野において、必要な専門知識やデザイン理論、デザイン実践手法、評価方法などについて、理解し他者に伝えることができる。

B-SE. ストラテジックエクスペリエンス領域

- ・ユーザーエクスペリエンス分野を形成する映像デザイン、インタラクティブデザイン、リスニングデザインおよび情報デザインなどの各分野において、必要な専門知識やデザイン理論、デザイン実践手法、評価方法などについて、理解し他者に伝えることができる。

B-共通 1. コース内共通科目

- ・デザインビジネスの基礎から知的財産として活用する専門知識やデザイン実践理論（特にストラテジックデザイン思考）、デザイン実践手法、評価方法などについて、理解し他者に伝えることができる。

B-共通 2. コース内共通科目

- ・修士論文を作成する際、研究の課題設定を明確に示し、学術的あるいは社会的な意義を提示することができる。作品の場合は、技術的、芸術的、あるいは社会的な意義を提示することができる。
- ・研究主題の探求に際して利用した資料や文献について、適切に理解し提示することができる。
- ・修士作品を提出するものは、作品制作に際して参考となる先行作品・先行研究を調査し、その内容を理解し、的確な作品説明書を作成することができる。
- ・修士論文（あるいは修士作品）の形式・体裁について、語句の使い方や文章表現、文献等の引用方法、図表等の引用元を理解し、的確に表現することができる。

C-1. 適用・分析

C-1-DB. デザインビジネス領域

- ・ 習得した専門知識やデザイン理論、デザイン実践手法などを適用して、社会、経済、産業との関わりから新しいデザインニーズを開拓し、解法に結びつける分析方法論や仮説の構築、プロトタイプの作成、社会実証実験、提案表現など行うことができる。

C-1-SA. ストラテジックアーキテクト領域

- ・ 習得した都市・建築デザイン、空間デザイン、インダストリアルデザイン、生活文化デザインなどの各分野の専門知識やデザイン理論、デザイン実践手法などと、デザインビジネス理論とを統合的に適用・分析し、デザインストラテジーの仮説を構築することができる。

C-1-SE. ストラテジックエクスペリエンス領域

- ・ 習得した映像デザイン、インタラクティブデザイン、リスニングデザインおよび情報デザインなどの各分野の専門知識やデザイン理論、デザイン実践手法などと、デザインビジネス理論とを統合的に適用・分析し、デザインストラテジーの仮説を構築することができる。

C-1-共通. コース内共通科目

- ・ 研究主題の探求に際して利用した資料や文献について、精確な読解や的確な評価を行うことができる。
- ・ 修士論文の論旨を展開する際に、研究主題の探求に際して利用した資料や文献を適切に言及することができる。
- ・ 修士作品を提出する者は、作品制作に際して参考となる先行作品・先行研究調査から得た知見を作品制作に適切に（批判的かつ効果的に）活用することができる。

C-2. 評価・創造

C-2-DB. デザインビジネス領域

- ・ 考案した仮説やプロトタイプ、提案などの評価を通じて問題点を発見・改良するラピッドプロトタイピングなどの技法の構築と、社会実装を実現するためのビジネスモデル構築などを行うことができる。

C-2-SA. ストラテジックアーキテクト領域

- ・ 考案した都市・建築デザイン、空間デザイン、インダストリアルデザイン、生活文化デザインなどに関するデザインストラテジーの仮説について、その妥当性や適用範囲、課題などを評価し、改善することができる。

C-2-SE. ストラテジックエクスペリエンス領域

- ・ 考案した映像デザイン、インタラクティブデザイン、リスニングデザインおよび情報デザインなどに関するデザインストラテジーの仮説について、その妥当性や適用範囲、課題などを評価し、改善することができる。

C-2-共通. コース内共通科目

- ・ 論文の執筆においては、修士論文の論証方法や結論の妥当性と意義について、問題設定から結論にいたる論旨が、実証的かつ論理的に展開することができる。
- ・ 修士作品を提出する者は、作品の制作方法と技術力について、課題設定に対し、妥当な制作方法を用いることができる。また、制作において、技術的課題を克服することができる。
- ・ 修士作品を提出する者は、作品の表現力と意義について、出来上がった作品は、課題設定に応える十分な表現を行うことができる。

D. 実践

D-DB. デザインビジネス領域

- ・ 構築した仮説やプロトタイプ、提案などの社会実装を実現するためのプロジェクト組織設計や実行計画などのグループを形成しプロジェクトマネジメント手法などを用いてグローバルなデザイン実践プロジェクトを推進することができる。

D-SA. ストラテジックアーキテクト領域

- ・ 構築した都市・建築デザイン、空間デザイン、インダストリアルデザイン、生活文化デザインなどに関するデザインストラテジーの仮説を社会実装するための方法論を構築することができる。

D-SE. ストラテジックエクスペリエンス領域

- ・ 構築した映像デザイン、インタラクティブデザイン、リスニングデザインおよび情報デザインなどに関するデザインストラテジーの仮説を社会実装するための方法論を構築することができる。

D-共通. コース内共通科目

- ・ 修士論文によって導き出された論旨・結論が、当該分野において新規性を持った学術的貢献や有用性のある社会貢献をすることができる。
- ・ 修士作品の場合は、当該分野において新規性を持った技術的・芸術的貢献や有用性のある社会貢献をすることができる。
- ・ 研究を通して、当該分野において新規性を持った学術的・技術的・芸術的貢献や有用性のある社会貢献をすることができる。

<博士後期課程>

A-1. 主体的な学び

デザインストラテジーの専門知識と学際的素養を土台に、研究者として自立できる専門的、先端的な研究能力および知識・思考・分析能力・技能習得などについて主体的に行うことができる。

A-2. 協働

多様な知の交流を行い、他者と協働し、学際的、総合的視野から社会のさまざまな問題解決に指導的役割を果たすことができる。

以下の項目については、博士論文評価基準に則り、項目ごとに到達目標を記述する。

B. 知識・理解

B-DB. デザインビジネス領域

B-SA. ストラテジックアーキテクト領域

B-SE. ストラテジックエクスペリエンス領域

- ・ デザインストラテジーを構成する多くの専門領域や学際領域について、多様な諸現象（ヒトや集団の特性やニーズ、製品・サービス・流通、環境・場、組織、事業、マネジメント、社会など）を理解し、論理的に説明することができる。

B-共通. コース内共通科目

- ・ 研究主題(テーマ)の意義について、研究の問題設定が、当該分野の学問的蓄積を踏まえて明確に示され、学術的あるいは社会的な意義を論理的に説明することができる。

C-1. 適用・分析

- ・ デザインストラテジー分野の先端的、学際的領域における理論や手法、ツール・技法などについて説明することができる。
- ・ 研究主題の探求に際して、利用した資料や文献が網羅され、それらの精確な読解や的確な評価を行うことができる。また、論旨を展開するうえで適切に言及することができる。
- ・ 研究主題探求のために採用された、理論、実験、シミュレーション、試作・試行、調査あるいは資料収集などの研究方法が適切かつ効果的に用いることができる。
- ・ 多様な諸現象について、先端的・学際的な調査理論や手法、ツール・技法などを適用して、諸現象の実態を分析し、特性や諸問題などを抽出することができる。

C-2. 評価・創造

C-2-DB. デザインビジネス領域

- ・ 諸現象の分析結果を学際的、総合的視野から評価し、社会のさまざまな問題点を明確化し、その解決策を創造（あるいは改善）する研究を自律的に遂行することができる。

C-2-SA. ストラテジックアーキテクト領域

- ・ 諸現象の分析結果を学際的、総合的視野から評価し、社会のさまざまな問題点を明確化し、その解決策を創造（あるいは改善）する研究を自律的に遂行することができる。

C-2-SE. ストラテジックエクスペリエンス領域

- ・ 諸現象の分析結果を学際的、総合的視野から評価し、社会のさまざまな問題点を明確化し、その解決策を創造（あるいは改善）する研究を自律的に遂行することができる。

C-2-共通. コース内共通科目

- ・ 諸現象の分析結果を学際的、総合的視野から評価し、社会のさまざまな問題点を明確化し、その解決策を創造（あるいは改善）する研究を自律的に遂行することができる。
- ・ 当該分野の学問的蓄積を踏まえた学術的・社会的意義のある研究課題を明確に設定し、研究課題の探究のために理論、実験、シミュレーション、試作・試行、調査あるいは資料収集などの研究方法を適切かつ効果的に援用し、問題設定から結論にいたるまで、明確で実証的かつ論理的に論旨を展開することができる。

D. 実践

D-共通1.

- ・ 芸術工学または工学の専門性をより深化・発展させ、世界水準の独創的研究を遂行することができる。

D-共通2

- ・ 研究を通して、当該分野において新規性、独創性を持った学術的貢献や高い有用性のある社会貢献をすることができる。

D-共通3

- ・ 社会のさまざまな問題解決を目指す研究において、学際的・総合的視野から指導的役割を果たすことができる。

2) カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

本専攻の修士課程のディプロマ・ポリシーを達成するために、別表（カリキュラム・マップ）の通り、教育課程を編成する。

本専攻の博士後期課程では、自らが「デザインプロデューサー、デザインストラテジスト（デザインストラテジー人材）でありながら、この分野でデザインストラテジーに関する研究教育能力を持ち、大学や企業等において人材の育成も担える極めて高度なデザインストラテジー能力、すなわち「独自の実践型デザインストラテジー方法論を構築し教育研究を担える能力）」を有する人材を育成することを目指している。そのためのディプロマ・ポリシーを達成するために、別表（カリキュラム・マップ）の通り、教育課程を編成する。

【コースワーク】

<修士課程>

本専攻は、デザインストラテジーの実践に必要な能力を、相互に関連するデザインエレメントとして再構築し、それを3つの領域に整理し、教育の基礎的な単位となる「領域」を編成している。これにより、本専攻が目標として掲げるデザインストラテジーの実践能力の涵養を目指す。

○ デザインビジネス領域

デザインビジネスの基礎から知的財産として活用する専門知識までを学び、さらに社会、経済、産業との関わりから新しいデザインニーズを開拓し、解法に結びつける方法論を構築できる能力を身につける科目区分。

○ ストラテジックアーキテクト領域

都市・建築デザイン、空間デザイン、インダストリアルデザイン、生活文化デザインなどにおいて、デザインビジネスとの統合をふまえたデザインストラテジーを構築できる能力を身につける科目区分。

○ ストラテジックエクスペリエンス領域

ユーザーエクスペリエンスを形成する映像デザイン、インタラクティブデザイン、リスニングデザインなどの情報デザイン分野における、デザインビジネスとの統合をふまえたデザインストラテジーを構築できる能力を身につける科目区分。

これらの基盤の上に、修士課程では、講義型/演習（プロジェクト型含む）/実験/実習・実技型のデザインビジネス科目/ストラテジックアーキテクト科目/専攻内共通科目を通して、「デザインストラテジーに関わる多様な関係性と方向性を的確に分析・構想・実践・評価できるデザインストラテジスト」を育成する。なお、修士論文作成（あるいは修士作品制作）に関わる科目を本専攻では、「デザインストラテジー研究領域科目」と位置付ける。

<博士後期課程>

本専攻では、カリキュラムを編成する上で、デザインストラテジーの実践に必要な能力を、相互に関連するデザインエレメントとして3つの領域（デザインビジネス領域、ストラテジックアーキテクト領域、ストラテジックエクスペリエンス領域）を編成し、教育の基礎的区分として運用する。これにより、本専攻が目標として掲げるデザインストラテジーの実践能力の涵養を目指す。

○ デザインビジネス領域

デザインビジネスの基礎から知的財産として活用する専門知識までを学び、さらに社会、経済、産業との関わりから新しいデザインニーズを開拓し、解法に結びつける方法論を構築できる能力を身につける科目区分（修士課程・博士後期課程共通開設科目：14科目）。

○ ストラテジックアーキテクト領域

都市・建築デザイン、空間デザイン、インダストリアルデザイン、生活文化デザインなどにおいて、デザインビジネスとの統合をふまえたデザインストラテジーを構築できる能力を身につける科目区分（修士課程・博士後期課程共通開設科目：11科目）。

○ ストラテジックエクスペリエンス領域

ユーザーエクスペリエンスを形成する映像デザイン、インタラクティブデザイン、リスニングデザインなどの情報デザイン分野における、デザインビジネスとの統合をふまえたデザインストラテジーを構築できる能力を身につける科目区分（修士課程・博士後期課程共通開設科目：9科目）。

これらの基盤の上に、博士後期課程では、自らが「デザインプロデューサー、デザインストラテジスト（デザインストラテジー人材）でありながら、この分野でデザインストラテジーに関する研究教育能力を持ち、大学や企業等において人材の育成も担える極めて高度なデザインストラテジー能力を習得するため、「修士課程・博士後期課程共通開設科目（合計34科目）」と「博士後期課程独自開設科目（4科目）」を有するカリキュラムと充実した教育・研究体制を整えている。さらに本専攻は、研究指導教員が必要と認める場合は芸術工学府他専攻の授業科目から2単位まで選択履修することができる。

また、学際的な素養を前提に、専門性をより深化させることを重視し、学生は「博士後期課程独自開設科目」を履修しながら、各自の専門分野の研究プロジェクトを推進する。

「博士後期課程独自開設科目（4科目）」には、各領域、または複数領域で共同して実施する科目として、「デザインストラテジー・リサーチ研修」、「デザインストラテジー・リサーチプロジェクトA」、「デザインストラテジー・リサーチプロジェクトB」、「デザインストラテジー・リサーチプロジェクトC」がある。これらを通して異分野共創プロジェクトや論文作成の環境、国際学会等での口頭発表、学会誌への投稿の機会を提供している。

なお、「博士後期課程独自開設科目（4科目）」を本専攻では、「デザインストラテジー研究領域科目」と位置付ける（注）。

【研究指導体制】

本専攻では学位授与の評価は、上記の参照基準を参考にしながら、ディプロマ・ポリシーに基づいて行う。

○ 修士論文について

修士論文は、学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果からなり、専門分野における高度な研究手法の習得を示す新規性を有し、かつ研究成果の国際的な発信に向けた対応がなされていなければならない。論文審査にあたっては、(1)研究の課題設定、(2)先行研究の理解と提示、(3)研究方法の妥当性、(4)論証方法や結論の妥当性と意義、(5)論文の形式・体裁などの評価項目を考慮しながら検討し、総合的に評価を行う。

○ 修士作品について

修士作品は、学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果からなり、専門分野における高度な研究手法の習得を示す新規性を有し、かつ研究成果の国際的な発信に向けた対応がなされていなければならない。作品審査にあたっては、作品と作品説明書（作品の意義・背景・方法・成果等を記したもの）について、(1)作品の課題設定、(2)先行作品・先行研究の理解と活用、(3)作品の制作方法と技術力、(4)作品の表現力と意義、(5)作品説明書の形式・体裁などの評価項目を考慮しながら検討し、総合的に評価を行う。

○ 修了要件（修士課程）

修了要件としては、博士後期課程に定められた期間在学し、下記の所定の科目を合計40単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上で修士論文または修士作品を提出し、その審査および最終試験に合格することが必要である。

・「専攻内共通科目」12単位

本科目については、専攻において専門分野が共通する、または専攻で共同して提供する科目で、8単位を必修（デザインストラテジープロジェクトAおよびB）とし、4単位を「専門科目」あるいは「自由科目」から選択し、履修する。

・「専門科目」16単位

本科目については、本専攻を構成する3つの領域がそれぞれ提供する専門科目で、デザインビジネス領域の科目から8単位以上を選択し、ストラテジックアーキテクト領域及びストラテジックエクスペリエンス領域の科目から8単位以上を選択し、履修する。

・「自由科目」12単位

本科目については、本専攻が提供する科目から選択し、履修する。なお、研究指導教員が必要と認める場合は、本学府他専攻・他学府・芸術工学部の授業科目から6単位まで選択履修することができる。

<博士後期課程>

本専攻では学位授与の評価は、「九州大学大学院芸術工学府における博士の学位論文に係る評価基準及び審査体制」に基づいて行う。

博士論文は学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果からなり、国際的な学術活動の視点から学術的に新たな知見と高い独創性を有していなければならない。

なお、課程博士の学位を請求する場合は、予備審査の申請要件として参考論文に査読付き論文を1編以上含まなくてはならない。

また、芸術表現、デザイン実践及びデザイン計画等を主とする研究分野の博士論文を提出する場合は、参考論文を参考作品に代えることができる。

論文審査にあたっては、(1)研究の課題設定、(2)先行研究の理解と提示、(3)研究方法の妥当性、(4)論証方法や結論の妥当性と意義、(5)論文の形式・体裁などの評価項目を考慮しながら検討し、総合的に評価を行う。

○ 修了要件（博士後期課程）

修了要件としては、博士後期課程に定められた期間在学し、下記の所定の科目を合計10単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格することが必要である。ただし、優れた研究業績を上げた者については、修業年限を短縮することができる。

- ・「修士課程・博士後期課程共通開設科目（合計34科目）」の中から4単位
- ・「博士後期課程独自開設科目」の中から6単位

【学位論文等審査体制】

<修士課程>

学位論文評価基準として5つの評価項目（1. 研究の課題設定、2. 先行研究の理解と提示、3. 研究方法の妥当性、4. 論証方法や結論の妥当性と意義、5. 論文の形式・体裁）を、修士作品評価基準として5つの評価項目（1. 作品の課題設定、2. 先行作品・先行研究の理解と活用、3. 作品の制作方法と技術力、4. 作品の表現力と意義、5. 作品説明書の形式・体裁）を設け、修士論文及び修士作品の審査の際に、審査委員がそれぞれの観点から評価し、最終試験の可否を判定する。

【学位論文審査基準】

<博士後期課程>

○ 博士論文評価基準と審査体制

学位論文審査基準として5つの観点「1. 研究主題(テーマ)の意義、2. 先行研究の理解と提示、3. 研究方法の妥当性、4. 論証方法や結論の妥当性と意義、5. 論文の形式・体裁」を設けているが、学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果からなり、国際的な学術活動の視点から学術的に新たな知見と高い独創性を有していなければならない。また、課程博士の学位を請求する場合は、予備審査の申請要件として参考論文に査読付き論文を1編以上含まなくてはならない。なお、芸術表現、デザイン実践及びデザイン計画等を主とする研究分野の博士論文を提出する場合は、参考論文を参考作品に代えることができる。

博士論文審査にあたっては、審査委員（主査1名及び副査2名以上）が学位論文審査基準の評価項目を考慮しながら検討し、総合的に評価を行い、最終試験の可否を判定する。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み（内部質保証）】

<修士課程>

学修目標の達成度は、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要性がないかを「デザインストラテジー専攻担当教員による定例会議（デザインストラテジー専攻会議）」において検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

- ・修士1年次の後期末に研究指導教員が主催するゼミにおける学修目標達成度を評価する。

- ・修士2年次の前期は修士論文等中間発表会における学修目標達成度を評価する。
- ・修士修了時は修士論文等審査における学修到達度を評価する。

<博士後期課程>

当該プログラムの中で焦点化した学修目標の達成度は、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善が必要ないかを「学務専門委員会」および「デザインストラテジー専攻担当教員による会議（デザインストラテジー専攻会議）」において検討することで教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

- ・博士1年次の後期末は研究経過報告書における研究目標達成度を評価する。
- ・博士2年次の後期末は研究経過報告書における研究目標達成度を評価する。
- ・博士修了時は博士論文等審査および最終試験における研究到達度を評価する。

3) アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

求める学生像

<修士課程>

本専攻では「高次のデザイン教育」という理念・目標に基づき、デザインストラテジーに関わる多様な関係性と方向性を的確に分析・構想・実践・評価できるデザインストラテジストを養成することを目標としている。そのために、デザインストラテジーを積極的に構築していこうとする態度と資質を有する学生を求めている。

具体的には次の通りである。

- (1) 専門知識と柔軟な発想力、豊かな創造力
- (2) グローバルに活躍できるコミュニケーション能力
- (3) 社会形成に対する関心と洞察力、現状に対する分析力

これらをふまえ、未来社会のデザインに積極的に関与していこうとする学生を評価し受け入れる。

以上のような学生を受け入れるために、入学者の選抜においては、①専門分野の基礎的学力、②自己の問題関心や思考を他者に伝達できる的確な日本語(英語)の能力、③積極的に新しい課題に取り組もうとする態度や意欲を重視する。また、社会人と留学生を積極的に受け入れる。

<博士後期課程>

専攻では「高次のデザイン教育」という理念・目標に基づき、デザインストラテジーに関わる多様な関係性と方向性を的確に分析・構想・実践・評価できるデザインストラテジストを養成することを目標としている。そのために、デザインストラテジーを積極的に構築していこうとする態度と資質を有する学生を求めている。

特に博士後期課程では、自らが「デザインプロデューサー、デザインストラテジスト（デザインストラテジー人材）でありながら、この分野でデザインストラテジーに関する研究教育能力を持ち、大学や企業等において人材の育成も担える極めて高度なデザインストラテジー能力、すなわち「独自の実践型デザインストラテジー方法論を構築し教育研究を担える能力）」を志向する人材を求めている。

なお、博士後期課程は、芸術工学府デザインストラテジー専攻修士課程プログラムを基盤として展開するものであることから、同課程の到達目標を達している、もしくは同等以上の知識・能力を習得しているとみなされることを、入学の要件とする。

入学者選抜方法との関係

<修士課程>

入学者の選抜は、学力検査（英語、専門科目）、専門科目に関連した小論文及び面接（プレゼンテーション及び日本語での口頭試問）の成績を総合し、6段階（ABCDEF）の判定により行う。

なお専門科目は、芸術・文化デザイン、情報・メディアデザイン、製品・空間デザイン、都市・建築デザインの中から1科目を受験する。

<博士後期課程>

入学者の選抜は、面接（プレゼンテーション及び日本語での口頭試問）の成績により、6段階（ABCDEF）の判定により行う。

	①専門分野の 基礎的学力	②自己の問題関心や思考を 他者に論理的に伝達できる 的確な日本語(英語)の能力	③積極的に新しい研究課題 に主体的に取り組もうと する態度と研究計画立案、 及び遂行能力
一般選抜	修士学位論文要旨・研究 経過報告書 研究業績書 職務経歴書（社会人）	面接(志望理由書、研究計画書・ 将来の進路計画、研究業績書に 記載内容を表現したノートパ ソコンによるプレゼンテーシ ョン及び日本語での口頭試問)	志望理由書 研究計画書・将来の進路計画

学修目標			修士1年		修士2年		博士後期課程1年	博士後期課程2年	博士後期課程3年
区分	領域	修士課程	前期	後期	前期	後期			
	コース内共通科目	B-共通2 修士論文を作成する際、研究の課題設定を明確に示し、学術的あるいは社会的な意義を提示することができる。作品の場合は、技術的、芸術的、あるいは社会的な意義を提示することができる。研究の進捗や状況について、適切に理解し提示することができる。 研究主題の探求に際して利用した資料や文献について、適切に理解し提示することができる。 修士論文を作成するものは、作品制作に際して参考となる先行作品・先行研究を調査し、その内容を理解し、的確な作品説明書を作成することができる。 修士論文（あるいは修士作品）の形式・体裁について、適切な図や文章表紙、文庫等の引用方法、図表等の引用元を整理し、的確に表現することができる。			デザインスタジアムプロジェクトA (必修：修士論文研究)	デザインスタジアムプロジェクトB (必修：修士論文研究)	デザインスタジアムリサーチ研修 (博士後期課程独自開設科目)		
		B-共通1 デザインビジネスの基礎から知的財産として活用する専門知識やデザイン実践理論(特にストラテジックデザイン思考)、デザイン実践手法、評価方法などについて、理解し発展させることができる。			ストラテジックデザイン思考	(ストラテジックデザイン思考)			
主体的学び・協働	デザインビジネス履修科目(DB)	A-2協働 多様な知の交流を行い、他者と協働し、学際的・総合的視野から社会のさまざまな課題解決に積極的役割を果たすことができる。		プロジェクトマネジメント		(プロジェクトマネジメント)	プロジェクトマネジメント		
		A-1主体的な学び 深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を発見し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。		プロデューサー原論		(プロデューサー原論)	プロデューサー原論		
	コース内共通科目			インターンシップ アーキテクトインターンシップ1		インターンシップ アーキテクトインターンシップ2			
学修目標			前期	後期	前期	後期			
区分	領域	修士課程	修士1年		修士2年		博士後期課程1年	博士後期課程2年	博士後期課程3年
アセスメント・プラン		修士1年次の後期末に研究指導教員が主催するゼミにおける学修目標達成度を評価する。 修士2年次の前期末に修士論文中間発表会における学修目標達成度を評価する。 修士3年次の修士論文発表会における学修目標達成度を評価する。							